

議 事 の 経 過

議事は、会議次第に沿って進行された。

「諮問」については、市長代理として産業観光部長が諮問書を読み上げ、会長に交付した。

「議題」については、事務局から説明後、出席者による自由討議が行われた。

討議の概要は、以下のとおり。

○ 議 題

1 現行「川越市産業振興ビジョン」の進捗状況について

事務局が資料に基づき説明。

[発言内容]

- ・質疑等なし。

2 次期「川越市産業振興ビジョン」の策定について

事務局が資料に基づき説明。

[発言内容]

(会長) ビジョン策定における「基本理念」に関して、委員から意見を伺いたい。

また、基本目標1は中小企業の支援と労働環境の改善、それによる産業振興をどうしていくのか。基本目標2は商店街の魅力をどのように上げていくのか、それに対する仕掛け等々を含めたにぎわいをどうしていくのか。基本目標3は企業誘致の推進ということで、現段階でも川越は工業それから卸流通業の土台は非常に整備されているが、新たな産業が川越に入ってくるというのは重要であり、今までのものと新しいものをうまく組み合わせる産業競争力の強化につなげていくのか。基本目標4は産業間連携ということで、農商工連携についてはもっと突き詰めないと国際競争力の創出にならないし、地域間競争の中でも産業間の連携がなければ成り立たない。SDGsなども意識しながら産業間連携を推進しなければいけない。基本目標の下には基本施策を掲げる形となっているが、本日の焦点は「基本目標」と「基本理念」に関わる部分ということで、細かいことでもイメージ的なことでも何でも自由に意見をいただきたい。

(委員) 読んでいて文字としては入ってくるが、具体的にどうしたらいいのか、誰がやるのかということを考える必要があると思う。ビジョンというのは英語のビジュアルに由来するが、人間の行動というのは7割が視覚的に入ってくると言われているので、このビジョンを見た人がこれでやっていこうという方向性を与えてくれるものにならないといけない。そういった意味で、これをできるだけ視覚的に訴える形にしていきたい。そして、基本目標がいくつか挙げられているが、サービス経済化の時代で、サービスに比重を置いた形で産業がなされているので、基本目標の優先順位付け、あるいはウエイト付けというのは出来るのかなど。市の予算との関係もあると思うが、その辺もどのように考えているのかというのを聞きながら、考えていきたい。

(会長) 今の意見は、ビジュアル表現の仕方について今までのような文字面ではなく、イメージや感覚で捉えられるものを考えてもらえないかということだと思う。各部署がどのように関連するかなどを含めて、検討をお願いしたい。

(委員) 産業振興ビジョンについて、このような議論が行われていることすら知らず、これだけの方がこれだけ注力して時間をかけて作成されていたということに、まずは驚かされた。それとともに、若者たちがこういったところにベクトルを向けていないということも感じた。若い経営者に向けて浸透させていくことで、もっと若い経営者が主体性を持って、こういったことに関わっていく形を今後作っていただければいいなという印象を受けた。このビジョンの中に、若者にももっと面白そうだな、これは何だろうなと思ってもらえるような、ただありがちな言葉を並べるのではなく、若い心をノックするようなそんな表現がなされていると、自分たちの時代なのかなと思えるような文言が入っているといいのかなと感じた。

(会長) 大変重要な課題だと思う。これまでも、ビジョンが策定された時に私たちを含めた数人は一生懸命見るが、多くの方には見ていただけていない。例えば、集約版の中で興味を引くような表現にする、あるいはビジョン策定のプロセスを知ってもらうというようなことが必要という意見だと思う。

(委員) これからの産業は、消費を喚起するだけではなく環境への配慮が重要であり、これがまさに SDGs だと思う。今、商工会議所ではかなり力を入れて SDGs に取り組んでいるが、行政としては、啓蒙という点で民間企業にどう動いてもらうのか。自分の会社だけでは解決できない問題も、連携することで解決できる場合があると思う。何か実例を作って、こういうことが出来るというサンプルを示す、そういうことが必要だと思う。また、何からのインセンティブも必要ではないか。

(会長) 今の意見は、単に産業間の連携だけでなく、生活者間の連携も含めた形ということ。社会を構成している産業や構成員である住民及び生活者、あるいはそれに関わる産業が一義的に連携するということだと思う。啓蒙ということ言えば、皆さんが関心を持てるようなワードや表現も必要だと思う。

(委員) どうやって横串を刺して、全てに浸透させていくかが重要だと思う。

(委員) 川越には農業もあるのに、この中には農業の話が含まれていない。もう少し農家の人にも伝わるような施策が出来ないのかと感じた。

(会長) よく理解できた。

(委員) このコロナ後の世界というのは、すごく難しいタイミングだと思った。国が大まかな方針を示し、県が示し、概要を作るだけなら簡単だが、例えば SDGs であれば、中身は分かっても、私たちがやることとどう結び付ければいいのか分からない、それで手を出せないという部分もあると思う。それぞれの役割みたいなものをもう一歩踏み込んで、この中に取り込んでいただければいいなと感じた。

(会長) SDGs については、それぞれの目標を達成するための方法論と具体的ビジョンがなければ何もできない。それぞれの視点に立ち、それぞれが何をすべきか。その辺りまで若干踏み込んだことをしないといけないかもしれない。その辺りをより分かりやすく、こうすればこうなりますよという風に表現することが重要だと思う。

(委員) 脱炭素とか食品ロスとか、そういう新たな問題について基本施策の中で具体的に考えていくことも必要ではないか。農業ふれあいセンターを体験型農業ができるように改修するという話もあるようなので、そういう川越独自のものを施策として取り込んでいくのがいいのかなと思う。

(会長) これは農政というように割り切ってしまうと、産業振興ビジョンは非常に偏ったものになる。その辺りも意見として踏まえておく必要があるということだと思う。

(委員) 個人的には 2050 年のゼロカーボン、これは産業界では技術革新であるとか、そういう部分でも大きなチャンスになるのではないかという見方もあるので、こういう所もやっていければと思うし、技術革新ではない分野でも、環境やりサイクル、省エネ等もこのビジョンに描いていくといいのかなと思う。

(会長) 何かが核になって動いていくという成功事例もあることから、そういうものを参考にして産業振興あるいは産業間の連携を考えていくのもよいと思う。商店街で農産物を加工したものを提供する、そこに工業系の技術を活用する。他地域ではそういった取り組みもあることから、そういうことも考えなければいけないと思う。

(委員) 過去に「リノベーションによる空き店舗等再生事業」のリノベーションスクールに参加したことがあり、このスクールも産業振興ビジョンの事業の一つとして実施されていたことは初めて知った。このビジョンを若い方たちにもしっかりと見てもらえるような仕組みがあった方がよりいいかなと思う。また、観光地において小規模で商売をされている方が多く、今回の新型コロナによる影響で人が集まってこないということによりだいぶダメージを受けているので、その辺りについてもこのビジョンの中でもしっかりと位置付けられるといいと思う。

(会長) 進捗あるいはこういう目標でハードないソフトを作っているという、ぱっと分かるようなビジュアルの作成が必要だと思う。ビジョンだけでなく、施策や事業の成果などをどのように年度ごとに教えてくれるのかということも重要だと思うので、そういうことを考えてもらえないかなと思う。

(委員) まず、コロナ禍で産業構造は大きく変わったので、経済を再生させるためにどうすべきかというのは、今回のビジョンの中で必要不可欠かなと思う。DX についても重要だと思う。コロナ禍での各事業所に対する国の補助金や支援金等の受取については、大きく電子申請に変わってきているが、パソコンやスマートフォンを使ったことがないため、それができない事業者も結構いる。一方で、最先端の DX に取り組んでいる企業もあり、他の自治体では DX に追いついていかない事業所や、逆に最先端で進んでいる事業所を後押しするような支援金を出すような制度を作っているところもあるようなので、そういったことも考えていく必要があると思う。

また、コロナ禍で影響がいろんなところに出ているが、危機感を感じるのは、事業所の数が相当加速して減っていくのではないかということ。業績悪化というのは意外と少なく、高齢化やコロナを機に商売をやめるという方が非常に多いので、事業所向けにしっかりと支援をしていかなければいけないという風を感じている。

一方で、コロナになってから創業される方が意外と多く、特に川越で創業したいという方が結構いる。今までは創業したい方の 6 割ほどは飲食だったものが、今はネット上での販売やバーチャル店舗での商売をされている方が多いなど、大きな変化が見られる。また、川越には住んでいないが、川越に来て商売したいという方もかなりいるので、そういったところをしっかりと支援していく必要があると思う。これまでの産業ビジョンの中でも、創業支援というのをテーマにしているが、創業後、しっかりと自立してやっていけるかどうかについては、創業以上に大切だと思う。

(会長) コロナ後ということで、今回のビジョンは大変重要だと思う。創業とその後の支援については重要な視点である。創業してもらうには事業立ち上げの魅力が必要で、事業継承については目標を持ったうえでグループ支援という形でやる必要がある。事業継承に関連する話としては、過去にも行っているが、人材育成などについて市内大学との連携も必要かもしれない。

(副会長) 皆さんの意見を聞いているなかで、この産業振興ビジョンが若い方々には存在すら知られていないという話があった。事業への参画意識が高い方でもそういうところがあるということに改めて実感したので、このビジョンをいかに市民の方々に理解していただくかというのは、やはり課題になってくると感じた。

また、DX は、これからの時代は必須になってくるのではないかと、つくづくと考えさせられた。どんなにいいプランでも市民に理解されなければ、実効性がないということになると思うので、その辺を考えていく必要がある。

さらに、産業・観光の基本目標は「地域資源をいかした、にぎわいと活力にあふれるまち」となっているが、一時的な効果ではなく、いかに継続性を持たせるかということが重要になると思う。事業継承の問題、創業の問題、創業しても、そこで創業者が持続的に発展できるような仕組みづくりというのが必要になってくると感じた。そのあたりを基本理念の中にいかに取り入れていくかということが、このアフターコロナ・ウィズコロナの中で、新しい構造が必要になってくると思う。

(会長) 各委員から意見等をいただいたが、他に何かあるか。

(委員) ビジョンというのは、現在の延長線上に作られるのではなく、将来戦略目的が達成された状態から現在を見る視点である。現状から未来を見るのではなく、将来から見て、今どうあるべきかを考える視点であり、そうしないと新たなものは生まれてこない。現在の基本目標は今まで考えられてきた項目であって、達成されたものは勿論なくなっていくし、まだこの中に入らない項目も、これから考えないといけないと思う。未来から見て、これを入れていかなければならないというものも、出てくる。この項目は未来から現在を見て、将来絶対に必要だ、これはまだ足りないのではないかと、いうことをまとめていただければ、非常に考えやすくなると思う。

(会長) 未来のあり方が今を見ていると想定できる部分もあるので、そういう視点で考えてみると、将来構想の中で、将来こうなった時に産業はどうだ、今やるべきことは何かということを検討した方がいいのではというご意見だったと思う。